特集「海と環境」の編集にあたって

本誌『環境情報科学』では，4巻4号（1975年10月発行）で特集「海」を取り上げたが，その当時はまさに海洋開発ブームだったため，とくに「開発と環境保全」というような視点から特集を組んだ。それからすでに34年経ち，今では，かつてないほどに地球環境の大切さ，環境資源の貴重さなどが，多くの人びとに認識されるようになっている。そこで今回，2007年7月に海洋基本法が施行され，2008年3月に海洋基本計画が閣議決定されたのを機会に，改めて海をとりあげ，とくに「海と環境」に焦点をあてて，特集を組むことにした。

海は広く深く，温和で，多くの生命を育んできた場所であり，人類の文明・歴史の舞台でもあった。そして，今後ともそうあり続けることであろう。本特集では，このかけがえのない海と人びとが末永くつきあっていくためには，「海」をどのように考え，どのように接していくのが望ましいのかについて考える契機とするために，「海」の現状はどうなっているのか，海にはどのような問題や解決すべき課題等があるのか，将来どのようなことが予想されるのか等について，各分野の第一線で活躍されている専門家の方々に，それぞれ話題を提供していただくことにした。

まず，＜海をめぐる法的枠組＞として，本田直久氏に，①海という「場」の管理といった視点から海洋基本法・基本計画について概観していただき，海洋施策の推進体制と海洋管理施策を例にその運用等について紹介していただいた。つづいて，＜海の生物多様性＞については，白山義久氏に，②生物分類学的な視点から，海洋生物の多様性と今後の多様性研究のあり方等について論じていただいた。また，＜海の環境変化をもたらすもの＞としては，河宮未知生氏に，③物理化学的な視点から，温暖化予測における海洋の重要性と，温暖化が海洋環境に与える影響や近年話題になっている海洋酸性化問題等について論じていただいた。さらに，＜海の環境保全や再生に向けて＞現在どのような取り組みがなされているのか等については，向井　宏氏に④海域・海洋保護区の効果と現状について，細川恭史氏には⑤海の再生への取り組みについて，大森　信氏には⑥熱帯・亜熱帯水域に広がるサンゴ礁の劣化と保全・再生について，それぞれ今後の課題と展望等を含め論じていただいた。ついで，多くの人びとが関心を持つ＜海の資源の利用＞については，八木信行氏に⑦人と地球システムとの共生（持続性を守る）という視点から食料資源としての漁業資源の現状と将来について，また谷口　旭氏には⑧沿岸・外洋における生物資源の持続的利用の考え方等を論じていただくと同時に，福島明彦氏には⑨波浪・温度差発電やメタンハイドレート・海底熱水鉱床等，海洋エネルギー資源の大陸棚および外洋における開発と利用について，規則や今後の展望等を含め論じていただいた。さらに，これからの＜海と人とのつきあい方＞を考えるために，日野明徳氏には⑩地球全体を一つの生態系としてとらえ，近年注目されている海の生態系サービス（恩恵）について，沓掛良彦氏には⑪神話や叙事詩等から，ギリシャ人と海について，それぞれ紹介していただいた。

これらの話題が，少しでも「海と環境」を考える契機となれば，編集を担当した者としては幸いとするところである。

（編集委員：大槻　忠）